

学校教育目標	「お互いを大切にし、主体的に学び続ける児童の育成」 校 訓 「かしこく やさしく たくましく やりぬく」	経営理念	めざす学校像「わかる できる かわる たのしい」学校 教職員が一体となり、家庭・地域と共に、これからの社会を力強く生き抜くために必要な資質・能力「知識・技能、課題発見・解決能力、自己調整力、協働性」の育成を目指した主体的な学びを促す教育活動を推進する。
--------	---	------	---

評価計画							自己評価					改善方針
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	改善方針
							9月	月				
確かな学力の向上	1	自ら学びを求める児童の育成	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	○授業力の向上 ・「わかる、できる楽しさ」のある日々の授業づくり ・研究推進による授業改善 ○朝学習(ぐんぐんタイム)の充実	◇学力の実態調査 ・NRT・標準学力調査の正答率 40%未満の児童の割合【10%以下】 ◇児童による意識調査 ・「主体的に学習に取り組む態度」に関する項目 肯定的評価【80%以上】	10%以下 80%	国17% 算14%		国58% 算71%	1 4	学力の実態調査では、目標値を下回る結果となった。国語科においては、特に「書くこと」の領域に課題がみられ、目的に応じて書く問題の正答率が低かった。算数科においては、学年が上がるにつれて正答率40%未満の児童が増え、既習内容の定着に課題がみられる。 どちらの教科も、系統立てて学習を積み上げ、既習学習を生かした単元設定や授業改善が課題であると考ええる。	◎「まとまり」や「順序」、「構成」等を意識し、系統立てた指導 ◎ぐんぐんタイムを活用した言語活動の指導 ◎単元ゴールを見通した単元構成 ◎既習学習を生かした授業づくり ◎分からないことを表現し合える安心した学級づくり
				○1人1台端末活用の促進	◇児童による意識調査 ・「1人1台端末の活用」に関する項目 「週3回以上」【90%以上】	90%	66% (低20% 中73% 高100%)		73%	2	目標値は下回ったが、4年生以上は100%の活用、3年生はローマ字の学習と合わせてタイピング練習に取り組んでいる段階である。教員のICT研修を通して、活用の幅が広がり、低学年は、ICT支援員の指導のもと、児童の発達段階を踏まえ、活用し始めている段階である。	◎タブレット操作に慣れる活動の場の設定(低学年) ◎授業における効果的なタブレット活用の場の設定(全学年)
豊かな心の育成	2	自己指導能力を身に付けた児童の育成	○「自分で考えて、決めて、実行する」適切な言動ができる児童の育成	○児童と教職員、児童同士の信頼関係の構築 ・発達支持の生徒指導 ・学年経営の推進 ・異学年交流の充実	◇児童、教職員による意識調査 ・「行動・言動」に関する項目 肯定的評価【80%以上】	80%	児童91.6% 教職員75%		児童114.5% 教師93.75%	2	意識調査における肯定的評価は、児童においては目標を上回って達成することができたが、教職員では目標を下回る結果となった。この結果から考えられる課題は、児童と教職員の間で認識のずれがあり、自らの行動を正しく振り返ることの必要性が考えられる。また、教職員は担当児童が望ましい行動や発言ができるように、より積極的な指導を進める必要がある。	◎学年経営の推進を通して、より積極的に指導を行う。 ◎児童が主体となり、児童同士が関係を深める活動を設定する。
			○目標設定、実践、振り返りの継続的・日常的な実践	◇生活目標の振り返り ・各学級の自己評価 肯定的評価【80%以上】	80%	80%		100%	3	生活目標の取り組みの結果、全体では目標を達成することができた。日常的な生活目標の取組が定着してきている。しかし、月毎に見るとあいさつにおいては目標を下回っている。また、重点目標については意識が高いが、重点目標が変わると意識が低くなってきている姿がみられる。	◎生活目標に対する取組を各学級でさらに活発に進める。 ◎生活目標の結果に対する振り返りを全校でも行う。	
たくましい体の育成	3	運動好きで、自分の体や健康に関心をもつ児童の育成	○運動好きな児童の育成	○体育科の授業改善 ・運動量の確保 ・課題意識をもたせる手立て ○運動の「日常化」の推進 ・校内体育的活動の充実	◇児童、教職員による意識調査 ・「運動が好き」「運動量」「課題意識」に関する項目 肯定的評価【80%以上】	80%	運動好き94.5% 運動量60% 課題意識94.1%		運動好き118% 運動量75% 課題意識117%	3	「運動好き」の意識調査における肯定的評価は、目標を上回ったが、「運動量」に関する項目は下回った。教職員における課題意識に関する項目は目標を上回った。運動に積極的な児童と消極的な児童が二極化している。運動が好きな児童を増やすために、今後は、委員会児童による全校遊びや大縄クラスマッチ、みなぐんピクなど楽しい体験や、できたという実感をもたせる授業づくりについて教職員間で検証して行く必要がある。	◎全校遊びや大縄クラスマッチなど児童が楽しく体を動かす取り組みを実施する。 ◎達成感を味わうことができるような授業づくりについて検証する。
			○生活習慣が整った児童の育成	○健康教育の充実 ・日常に生かす保健指導 ・計画的な食育指導 ○保護者啓発 ・各種便りへの記事掲載 ・PTA活動との連携	◇児童による意識調査 ・生活習慣(メディア利用を含む)に関する項目 肯定的評価【80%以上】	80%	睡眠時間69.5% メディア利用55.9%		睡眠時間86.8% メディア利用69.8%	2	児童による意識調査ではどちらの項目も目標を下回った。特に高学年になるにつれて、メディア利用時間が増え、睡眠時間が減っていた。生活習慣の整っている家庭とそうでない家庭の差が見られた。メディアとの付き合い方について保健指導や、保健だより、学校だよりなどで児童や保護者に啓発していく。	◎メディアとの付き合い方について保健指導やたより等で啓発する。 ◎保護者と連携を図る。
信頼される学校づくり	4	教職員が元気で、保護者や地域に開かれた安心安全な学校づくり	○地域と関わる学習の充実	○児童の教育活動と地域との連携による、教育活動の充実と貢献	◇地域と連携した教育活動【各学年1回以上】	各学年1回以上	100%		100%	4	・生活科や総合的な学習においては、学習内容をより実のあるものとするために、昨年度までの取組をふまえ、人材リストを活用し地域を軸にニーズに応じた人材を選定するとともに、学習の意図を共有し、参画してもらうことができた。	◎まちづくり協議会等地域の団体とも、人材リストを共有したり、情報共有したりし、地域の協力を仰ぐ。 ◎PDCAを活用したカリキュラム・マネジメントにより、カリキュラムの改善を図る。
			○働きがいのある職場づくりの構築	○子供と向き合う時間の確保 ・放課後の時間の効率化 ○定時退校日の設定	◇教師による意識調査 ・「働きがい」「子供と向き合う時間」に関する項目 肯定的評価【90%】 ◇月に4回以上定時退校した教職員【80%】	90%	91.2% 80%			100%	4 ↑	・「やりがいを感じている」「仕事は楽しい」と全教職員が回答している。その一方で、「子どもと向き合う時間を持っている」82.4%「自分の時間が持てている」64.7%という結果から、放課後の時間が限られているため、業務遂行の時間確保が難しく、子どもと向き合う時間は概ね持てているが、多様な業務を抱え、業務時間外での教材研究や授業準備等の時間が増え、ワークライフバランスがとりにくい実態がある。
■自己評価 4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成 2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成												

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。